

I 60歳からの革命



ひみ元気野菜の会
廣 英信さん 74歳

取り組みの概要

“元気野菜大学”を開校したい。2030年、元気年齢は延び、氷見市は日本一介護保険料が低い市となり、都会からの移住者も増加。農家の収入も安定し、氷見元気野菜として、全国的に定着。失った当たり前がもどり、心ひとつに、氷見はよみがえった。あなたは、60歳から国の負担になりますか？それとも国の宝になりますか？

あきらめない訳 荒地を作ったのは、右肩上がりを通じた世代。若い世代が年金をもらっている世代をみて、どう思っているか。自分が60歳になった時、そうなるとは思っていないのではないかな。私たちは、このまま終わるわけにはいかない。昔の自然、当たり前を取り戻す責任を果たし、それを子や孫に残すべきである。「ひとの喜びことしられ」という母のつづきを思い出した。

60歳 人生の転機 60歳になった時、集約化が進み、数が減りつつある農家の現状を知り、このままでは農家がなくなり、氷見がなくなってしまうのではないかと危機感を感じた。

気がつけば夜遅くまで議論していたこともあり、いろいろな人とのつながりができ、楽しかった。やりたいことは自分達で決め、やればできるんだと視野が広がりました。今後は廣さんの夢をどう現実化していくか、また話し合っ、人に説明できるくらいにしていきたいです。

イタリア料理店 廣 敬三さん

小廣さんは平成27年12月12日に東京ドームシティで開催された「ドリームプラン・プレゼンテーション2015世界大会」に出場し、自身の夢を発表されました。

II 地方創生・氷見検定



氷見伏木信用金庫
北鹿渡 孝誓さん 40歳

取り組みの概要

“氷見検定”をつくりたい。氷見に生活しているけれど、どれだけ氷見のことを知っているのだろうか。氷見検定を受けることで、郷土愛が育まれ、氷見大好き人間があふれるまちに。そんな人達が、新たな雇用を創出し、社会貢献し、氷見の未来を明るくする。そんな氷見検定プロジェクトを実現させたい。

あきらめない訳 氷見伏木信用金庫の地方創生メンバーとして声をかけられ、地元のために足跡を残したいと思った。現在は2児の父親。子どもたちのためにも氷見の明るい未来のバトンを託していきたい。

20歳 人生の転機 大学生の頃、地元を離れ、あらためて氷見のよさに気づいた。父親やおじから、氷見の魅力をたくさん教えてもらった。子どもたちにも同じように、氷見の魅力を伝えていきたい。

北鹿渡さんの後援として精神的なサポートをしました。そして、たくさん実現したい夢を語り、お互いに励み合いました。大人が人前で夢を語ることは素晴らしいと思います。また、人の夢を応援することも大切だと感じました。来年度以降、チャンスがあれば、自分もぜひ挑戦してみたいです。

教員 上杉清吾さん

研修の中で北鹿渡さんの相談のつたり、写真撮影のお手伝いもしました。写真撮影で協力いただいた職員の方達にも声をかけさせていただき、当日は多くの方にきていただき、嬉しかったです。

氷見伏木信用金庫 十二町昌貴さん

II 眠らせない街、氷見



飲食店スタッフ
谷 凜矢さん 22歳

取り組みの概要 “氷見街”をつくりたい。北陸最大のにぎやかな街となり、多くの人が訪れる。夜にはネオンがきらめき、明け方を迎えるまで、明かりが決して消えることはない。誰もが口を揃えて言う。眠らせない街、氷見街。人があふれ、活気に満ちた街には、小さな出会いから始まる、大きな夢が散らばっている。

あきらめない訳 人見知り強い自分にはこの仕事は合わない、家に引きこもった時期があった。しかし、以前お店に来ていたお客さんとたまにまた出会い、声をかけられた時、氷見の人が、人を大切にする姿に感動した。氷見の人が、他人の心にズカズカ入り込む本当のところは、氷見の人ならではの温厚な人柄、心の温かさなのだと気づいた。

20歳 人生の転機 2年前、商工会議所青年部に入ったのがきっかけで、夜の店を知ろうとする人、認めてくれる人が一気に増えた。もともと出身は大阪。氷見は母親が生まれという縁で、7年前に移り住んだ。

できあがったものを積極的に見て、映像・音楽などに関してアドバイスをしていただきました。ドリプラの取組はずっと続けてほしい。ただ夢を語るだけではなく、研修こそが大切だと感じました。ぜひ多くの市民の皆さんにも体験してほしいです。

商工会議所青年部 能岡由規さん

谷さんの文章を確認したり、動画編集の面でサポートしました。編集は初めてで大変でしたが、いい経験させていただけました。ドリプラに参加された様々な業種、団体の方々と交流が、何より貴重な経験でした。

商工会議所青年部 藤 洋介さん

III 45度じゃない笑顔の市役所



氷見市役所(市民課)
丸山 雅世さん 27歳

取り組みの概要

氷見で結婚したい、氷見で子どもを育てたい、氷見で仕事をしたい……そんな人達が集まり、出会う場を、“笑顔”の力でつくりたい。市役所全体にとどまらず、まわりの人みんなが、笑顔でいいなと思ってくれるといい。氷見市で増えたのは人口だけでなく、笑顔だった。Smile City Himiを目指します。

あきらめない訳 これまでに笑顔で自分を救ってくれた友達や家族、お客様に恩返しをしたい。今度は自分が、笑顔で誰かの力になりたい。

25歳 人生の転機 25歳頃、前職のアパレルの仕事をしていて、お客様から「ありがとう。笑顔がいいね」と言われ、やる気があがった。その時、笑顔は人を助ける力になるのだと気づいた。

自分でできる限りの写真を撮って、丸山さんに提供しました。学生から離れると、みんなで一緒に何かをやるという機会がなかなかないので、文化祭を思い出し、とても楽しかったです。

氷見市役所 藤原理美さん

編集や写真集でお手伝いしました。ストーリーを何度も読み直したので、その都度編集し直しました。夜遅くまで話し合い、大変でしたが、その分チームとしてまとめることができ、嬉しかったです。

氷見市役所 出口 学さん

I 杉と人との循環型社会



大工
正力 健太郎さん 38歳

取り組みの概要

“氷見の杉をブランド化”したい。木への関心が薄れる中、2025年までに、地域の海、農地、生活環境、素材生産、工務店、大工、木材産業が一体となって地産地消が弾み、地域、環境のみならず産業、文化など多方面に活気が出ている。氷見の杉が全国に知れ渡り、雇用が生まれ、森林は整備され、氷見の山はきれいに。そんな未来を目指すために、食器づくりを通して木の魅力を伝える挑戦をしている。実際に手にとって、やわらかさや香りから、木のよさを伝えていきたい。

あきらめない訳 誰もやらない。だから自分がやらなければ、氷見の杉をPRしなければと思った。国産材時代が到来している今は、チャンス。とにかく前に進むのみ。

22歳 人生の転機 22歳の頃、大工の父親のもと、修行を始めた。

音楽をやっているの、動画編集の地、自作のBGMを提供して支援しました。正力さんにとって何が一番の支援になるのか、自分には何ができるのかを、いつも考えさせられました。

商工会議所青年部 柳田和さん

商工会議所青年部 小坪哲郎さん

II ひみ世界発信局 ~スローツーリズムの確立~



氷見市役所(観光課)
林 知成さん 34歳

取り組みの概要

“映像”の力で氷見の魅力である人、食、自然、そしてライフスタイルを世界に発信していきたい。人生を変えたいと思っている人達に伝えたい。ほんの些細なこと、人生は変えられる。“ひみ世界発信局”を通じて、人と人をつなげます。

あきらめない訳 富山に来て、人の優しさ、食の美味しさ、自然にふれ、感動した。この魅力を、もっと伝えたいと思った。氷見市は私の人生を変えてくれた。だからこそ、外から来た人じゃないと伝えられないことを発信していきたい。

34歳 人生の転機 半年前、大阪で働いていた際、忙しくてなかなか家に帰れなかった。ある日妻から「全然一緒に食事ができない」と言われた。身近な人も幸せにできないなんて、このままじゃだめだ。妻にはいつも笑っていてほしかった。だから、妻の出身である富山県への移住を決めた。

林さんが本当にやりたいことは何なのか、質問をしながら、みんなで夢を語り、お互いに励み合いました。反省も多かったが、学園祭のようなノリもあり、楽しかったです。

氷見市役所 新井暢明さん

写真撮影、アイデア出し、ストーリー修正のほか、心の支えになりました(笑)。皆さんのやる気、アツい思いに驚きました。夢と事業が重なっていたので、とてもリアリティがあったと思います。

氷見市役所 伏喜友祐さん

II ヒミフェス ~楽しさは僕らを繋ぐ~



氷見市役所(観光課)
前田 昌志さん 29歳

取り組みの概要 “野外音楽フェス”をやりたい。氷見で、若い人が思いきり盛り上げられることをしたい。行政も関わらず、何のしがらみもなく、みんなで楽しめる、一人の人がやりたいことを、思いっきりやりたい。2025年、この頃、毎年開かれている“ヒミフェス”の日は、県外に出て行った若者達が、友人、家族を連れて戻ってくるように。楽しさは、僕らをつなぐ。

あきらめない訳 昔は盛んだった獅子舞。今は若い人が少なくなり、さびしい気持ちになる。若い人が、わーっと盛り上がるのことが、にぎわいの象徴だと思うので、フェスをやりたいと思った。

23歳 人生の転機 以前勤めた会社では、朝から晩まで電話。利益重視の働き方よりも、人役に立つ仕事を、自分の納得できる仕事をしたいと思い、地元の市役所職員になることを志した。

主にストーリーづくりのアドバイスや、写真撮影の協力をしました。駅前や公園など市内をまわり、お店での撮影交渉もしました。前田さんの夢に対する思いに共感しました。夢を一緒に追いかける人のサポートが少しはできたかな、という充実感を感じています。

氷見市役所 高林克行さん

前田さんの思いをいかに表現すればいいか、遅い時は深夜まで、みんなでストーリーづくりをしました。大変だった分、終わった時は達成感や感動がありました。皆さんが一生懸命力を合わせている姿が見られて、嬉しかったです。

氷見市役所 長井康雄さん

IV ひみいろハウスプロジェクト



社会福祉士
穴倉 明子さん 50歳

取り組みの概要

“氷見でのあったかい暮らしが体験できる場所”をつくりたい。障害のある方も、高齢者も、学生や子どもも、サラリーマンも、みんなの力が活かして、シェアして、安心して集える場所。子ども達の遊ぶおもちゃがあったり、みんなで一緒に食卓を囲めるような場所。そんな場所をつくりたい。

あきらめない訳 障害のある子を持つ親として、障害者に対してだけでなく、助け合いの気持ちを育てていきたい。

39歳 人生の転機 39歳頃、市内に療育施設がなく、どう通えばいいか困っていたところ、職場の先輩家族に毎日助けをいただいていた。ほんの少しの助けが支えになるのだと感じた。

写真撮るためのモデルと一緒に探したり、撮影場所を提供するサポートをしました。仕事との時間調整が難しく、大変でした。夜遅くまでかかってもあり、みんなでがんばりました。

NPO職員 坂下幸子さん

動画編集をお手伝いしました。初めての経験で勉強になりました。今後も活かしていきたいです。みなさんアツい思いを持っていることを実感しました。この後も夢にむかって発信し続ける必要があって、これから始まるんだと思います。

NPO職員 堀田優子さん